



## 練馬最大の祭典「第36回練馬まつり」が開催

と き 10月20日(日)午前10時～12時

ところ 練馬総合運動場(練馬2-29-10)、平成つつじ公園(練馬1-17-6)およびその周辺

20日、練馬区最大の祭典である「第36回練馬まつり」が、あいにくの雨の天候であったが、開催された。

練馬駅北口徒歩10分圏内の4会場で開催。各会場の特設ステージ上では、一部プログラムを変更して行い、ヒップホップや合唱など、各団体が日頃磨いた演技の腕前を披露し、観客を楽しませた。

メイン会場の練馬総合運動場では、練馬の名品や、区が復興支援を続けている宮城県亶理町の特産品など、地方物産品の販売ブースが並んだほか、バイオリンなどの楽器を体験するコーナーや行政相談窓口など、様々なジャンルから約110の出店が立ち並んだ。

この日、宮城県亶理町ブースで販売を行った亶理町商工観光課の男性は「震災当時から、練馬区の皆様には多大な支援をいただいていたので、区民の方々に少しでも何かお返しができればと思っていた。本日はあいにくの天気にも関わらず、いろいろな方にお声かけしてもらえたので、非常にありがたいと思いました」と話してくれた。

なお、雨の影響により、当初午後3時30分までの開催予定であったが、正午で終了となった。



【亶理町ブースの様子】



【楽器体験の様子】

### 【当日の様子】

午前10時、雨天の中、練馬まつりが開催された。特設ステージでは予定されていた各プログラムを、一部縮小して行われた。社交ダンスやヒップホップ、合唱などが披露され、ステージ前には傘をさしながら鑑賞する来場者の姿が見受けられた。

「ふるさと自慢市」と銘打って全国の地方物産品を販売するコーナーでは、約110の出店が立ち並び、にぎわいを見せていた。「練馬区にちなんだ商品」を販売する「ねりコレ会」や、区内の商店会などをはじめ、区が復興支援を続けている宮城県亶理町からも物販ブースが出店。亶理町で収穫・加工したカレーの干物や、特産のイチゴを使ったイチゴジャム、名産の「梅羊羹」など、数々の品が並んだ。

また、都内ナンバー1の生産量を誇る練馬のキャベツを使用した**練馬の新ご当地グルメ「練馬野菜ぎょうざ」**のブースでは、都立第四商業高校の高校生ボランティアも協力して練馬野菜ぎょうざの(焼き餃子)の調理・販売を行い、練馬の魅力を存分にPRした。

### 【練馬まつりとは】

「練馬まつり」は、1978(昭和53)年に「練馬区民祭」として初めて開催されて以来、毎年10月に開催し、練馬の秋の祭典として定着している。また、「練馬まつり」にあわせて、「健康フェスティバル」が区立開進第二中学校で、「ねりまエコ・スタイルフェア」が区立南町小学校で、「第131回練馬区民寄席特別編 ねりまファミリー寄席」が文化センターで開催された。

主催は、第36回練馬まつり推進協議会(第36回練馬まつり運営連絡会、練馬区観光協会、練馬区)。

【問い合わせ】 区民生活事業本部 産業経済部 商工観光課 観光係 電話 03-5984-1032